

1.建物色彩-緑の尊重+自然環境との調和-基準(素案)

■ 景観形成の方針=色彩・照明等の景観形成に関する方針 (H18年度グランドプランより)

鮮やかな色・極端に明るい色、過剰で派手な照明等を避け、自然環境に調和した穏やかで海辺を感じさせる美しいまち並みをつくります。

■ 全地区共通の基準

壁面色彩：松林・海浜性植物・空・海等の自然環境の色彩を尊重する。低彩度、高明度の暖色系色彩を基調色とする。

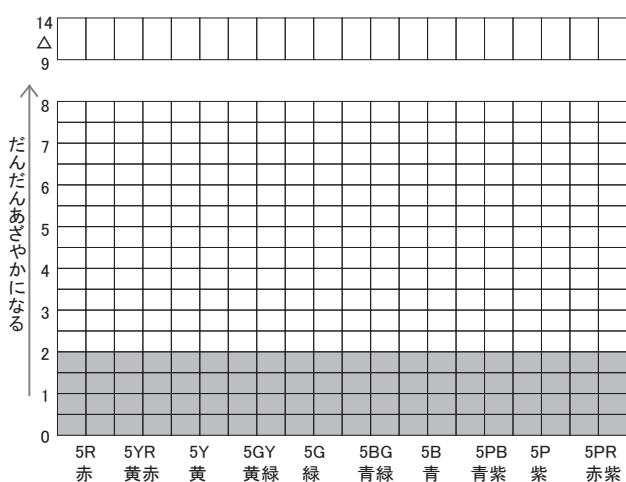
赤～黄は彩度4以下明度4以上。その他は彩度1.5以下明度8以上。

屋根色彩：落ち着いた景観をつくるため低彩度の色彩とする。

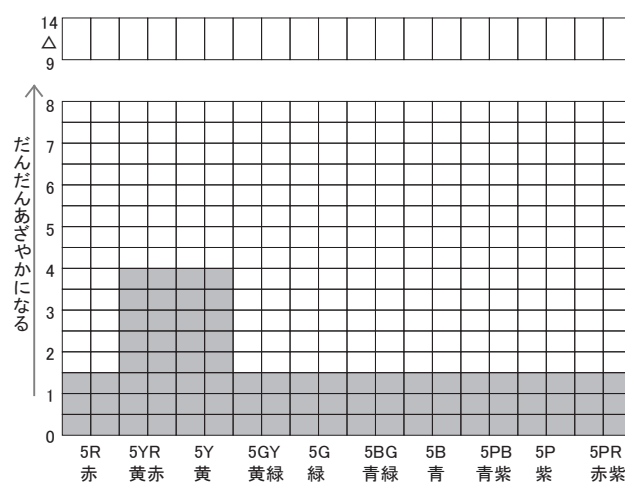
彩度2以下明度5以下。

アクセント色彩：壁面の一部にアクセント色を用いる場合は、広告物の面積に算入する。

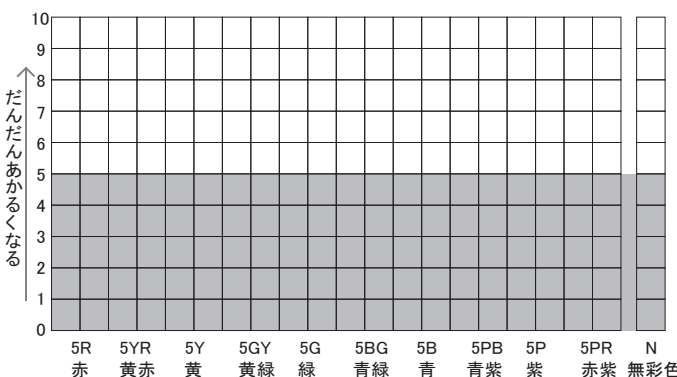
■ 屋根 彩度基準



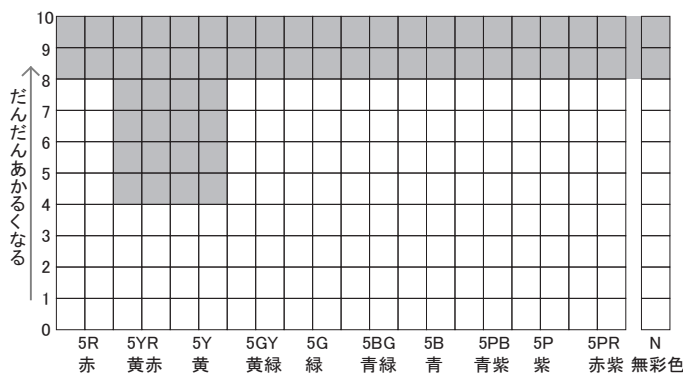
■ 外壁等 彩度基準



■ 屋根 明度基準



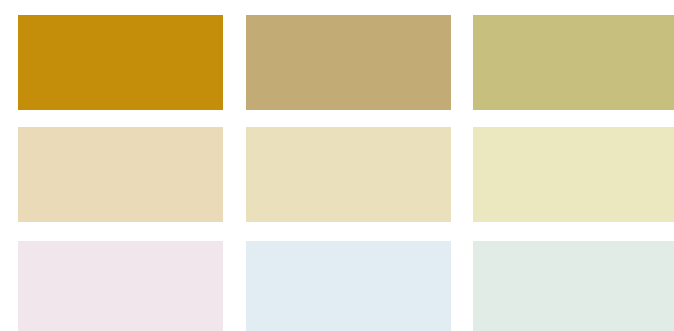
■ 外壁等 明度基準



■ 屋根 色彩サンプル



■ 外壁等 色彩サンプル

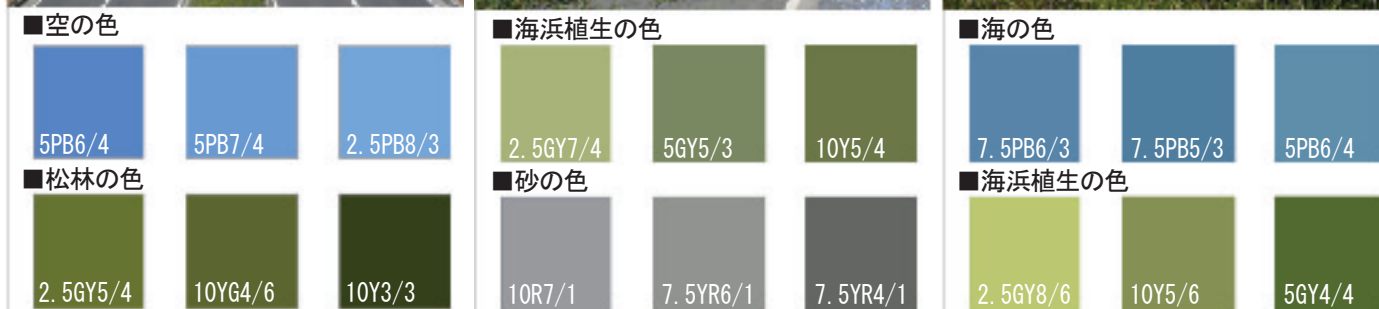


2. 考え方

自然を際立たせるために建築物などは淡い色彩使う必要があります。

海・空・緑等の自然の色彩は、季節や天候等により常に変化しており、その変化が自然をより魅力的にしています。これらの微妙な変化を活かすために、人工構造物の色彩は、自然がつくる色彩の変化に対して、色が薄く(淡く)、同じ色相を使わないことが大切です。

海・空・緑などの色彩に対して砂浜の色彩は淡く、寒色系(青・緑系統)に対して、暖色系(茶色系)となっています。



下図の上は鮮やかな色彩を使った場合。下は自然界の色彩に配慮した基準(左表)に沿って色彩に配慮したケースです。

鮮やかな色彩を使った場合には、松林や敷地内の緑を際立たせることができません。

